

4-4 上高地付近の地震活動について

気 象 庁

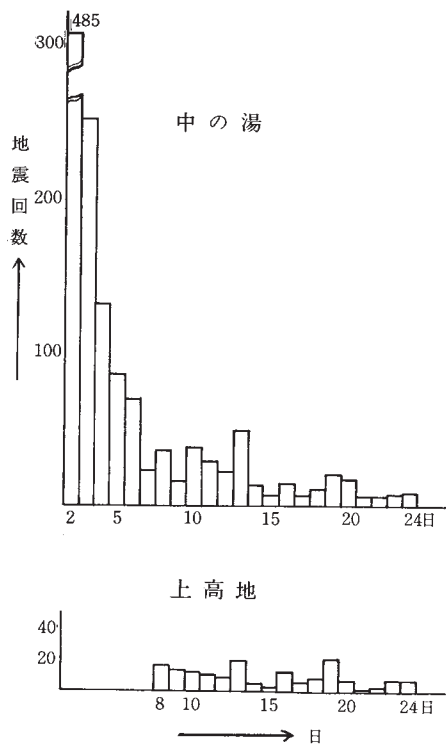
8月31日20時18分に、長野県西部の東経137度43分北緯36度12分に深さ約10km、 $M = 4.7$ の地震があり、その直後から焼岳東方の山岳地帯に地震が群発し始め、9月2日21時07分には、本震ともいべき震源のごとく浅い $M = 5.0$ の地震が殆んど同じ地域に発生し、引続いて21時25分にも $M = 3.7$ の余震が発生し顕著な活動を示したが、その後第1図のような経過でおさまっていった。

気象庁の地震観測所や火山観測機動班の観測によると、震源域は第2図のように分布しており、活動の中心部は焼岳東方の霞沢岳の付近で直径数km、深さ1～10kmの範囲であった。

なお、火山地帯の地震は付近に顕著な地震が発生すると、急激に活動を始めることも多いが、9月9日に南西約60km離れた岐阜県中部で起った $M = 6.6$ の地震では、第1図のようにこの地域の地震活動には変化がなかった。

この現象は、この地震活動が焼岳の表面の火山活動に影響がなかったことなどと共に特色といえるかも知れない。

第1図 上高地付近の地震活動の変化
(1969年9月2日～24日)



第2図 上高地付近の地震活動の震源分布図
(1969年9月8日～24日)

